

# 堤防のセツトバック要望

村井 知事 「高さ変更しない」

県議会定例会予算特別委員会、村井嘉浩知事は27日、一部の地域で堤防を内陸に移して整備することを認めるように国へ強く要望していることを明らかにした。

気仙沼・本吉選挙区の畠山和純県議と内海大県議による総括質問

に対して、村井知事は堤防の位置などで地域と妥協点を探る姿勢を示し、「(8月に)気仙沼を視察した後、できるだけ前浜を残し、内湾については地形をうまく活用するように指示した」と説明した。

その一方で、「(明治三陸級津波を防ぐ)

高さの確保は、同じ不幸を絶対に繰り返さないために強いこだわりがあり、批判されても譲りたくない」と、堤防高そのものは変更しないことをあらためて強調した。

畠山県議は、堤防の余裕高をなくす可能性を確認したが、山田義

輝・農林水産部長は「気仙沼湾は海岸の背後に重要な市街地があり、現地再建を基本としている。余裕高分を下げれば、レベル1津波に安全性が低下し、レベル2津波では危険度がさらに増す。まちづくりにも影響するので、余裕高は必要だと答弁した。

このほか、小泉海岸の堤防について県は、「できるだけ前浜を広くとれるように堤防の建設位置を検討している」との考えを示した。

2012年9月28日付「三陸新報」1面①